

自衛隊神奈川地方協力本部

清川村宮ヶ瀬湖畔クリスマスイルミネーションの中、募集広報！ ～2年連続の入隊者獲得を目指す～



入隊希望の息子を持つ母親と話す
厚木募集案内所所長岡山1海尉

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山1海尉）は、12月16日（土）、神奈川県唯一の村である清川村の宮ヶ瀬湖畔にて開催された「第32回宮ヶ瀬クリスマスみんなのつどい」において募集相談員 落合 園二氏の協力を得て、メイン会場に自衛隊ブースを設置し、募集広報を行った。

当イベントは、人口約3千人の清川村にクリスマスシーズンの約1か月間で、約25万人・30万人の来場者が訪れる村最大規模のイベントで、宮ヶ瀬の美しい湖や山々、そして夜には、華やかにイルミネーションされたクリスマスツリーや光のトンネルの光るつり橋が現れる。

日没前からブースには多くの来場者が訪れ、仕事について説明する広報官に興味を持った若者は「厳しい仕事なのに、なぜ自衛隊に入ろうと思ったんですか」と尋ね、広報官は笑顔で答えていた。また、自衛隊を目指す息子を持つ母親は「息子は将来、陸上自衛隊に入りたいと言っています。高等工科学校について詳しく教えてほしい。全力で応援したいんです」と話すなど、宮ヶ瀬の絶景の中で広報官と来場者は、終始和やかな雰囲気でお話していた。

厚木募集案内所は、今春、清川村から約10年ぶりに自衛隊入隊者を輩出した。現在は陸自第1空挺団に所属し、日々鍛練を積んでいる。今後も募集対象者と直接触れ合う機会のある活動に積極的に参加し、同村より2年連続の入隊者獲得を目指して任務に邁進していくとしている。

募集対象者らに対し航空自衛隊入間基地にてCH-47体験搭乗を実施



フライトを終え隊員の誘導でヘリから降りる参加者たち

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長1等海佐 山野太資）は、12月17日（日）、航空自衛隊入間基地において募集対象者ら60名に対しCH-47体験搭乗を実施した。

当日はフライトに最適な冬晴れとなり、参加者たちは入間基地に到着後、ヘリ隊から搭乗前の安全教育を受けた。耳あてやシートベルトの着用の仕方、絶対に触ってはいけない場所など具体的な説明を聞き、ドックタグを首からかけると、緊張しながらも時折笑顔を見せ、これから乗り込むヘリコプターとフライトへの期待が高まっている様子だった。

シートに腰掛けしばらくすると機体が浮き上がり、参加者たちは「もう飛んでいるの」と窓や機体後方の出入り口から外の様子を伺い、フライト中は、操縦席や操縦中のパイロットを見学したり、空からスカイツリーを眺めたりと、普段経験する事のできない貴重な体験に興奮している様子だった。

参加した高校生は「充実した体験でした。憧れていた仕事を実際に見学することが出来て、とても参考になった」と感想を述べていた。

神奈川地方協力本部は、今後も自衛隊をアピール出来る各種イベントを積極的に企画し、募集及び防衛基盤の拡充に努めていきたいとしている。

自衛隊家族会海老名・綾瀬地区会「陸自土浦駐屯地研修」を支援



武器学校小火器コーナーを見学する会員

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山1海尉）は、11月10日（金）、自衛隊家族会海老名・綾瀬地区会の陸自土浦駐屯地部隊研修を支援した。

土浦駐屯地は、武器学校が駐屯し、戦前は予科練で有名な「土浦海軍航空隊」が設置されていた。当家族会は、かねてより研修先として希望していた場所。今回は、大槻会長以下16名が参加した。

研修では、武器学校小火器コーナーにて、歴史ある様々な種類の銃の展示を見学し、杖の形をした特殊な銃に参加者は「このような形状に作成するなんて、すごい技術ですね」と関心と驚きを見せていた。続いて、航空母艦を模した建物「雄翔館」にて、予科練出身戦没者の遺影や遺品などを見学し、遺書を読んだ参加者は「全国の平和記念館に行きました。が、いつも胸が熱くなり涙が出てきます」と先人たちの思いを噛みしめている様子だった。

研修の最後に大槻会長は「本研修で学び、感じた事を地域の方々にお伝えいただければ」という言葉で締めくくっていた。

厚木募集案内所は、今後も部隊研修などの支援を通じて、自衛隊に対する理解を深めてもらえるよう努力していくとしている。